

健診部



健診部長
前川 高天

専門医資格等 日本消化器病学会指導医
日本消化器内視鏡学会指導医・同評議員
日本内科学会認定内科医
日本ヘリコバクター学会 H.Pylori(ピロリ菌)感染症認定医

専門分野 消化器内科一般
得意疾患 消化管疾患

□ スタッフ

平成25年10月1日時点

| | 氏名 | 専門医資格等 | 専門分野 | 得意疾患 |
|----|-------|--|--------------|--------------|
| 医師 | 小坂田元太 | 日本循環器学会認定循環器専門医・近畿支部評議員 日本内科学会認定内科医・指導医 日本超音波医学会 超音波専門医・超音波指導医 | 循環器内科学、超音波医学 | 循環器内科学、超音波医学 |
| 医師 | 金崎 幹彦 | | 循環器内科 | 循環器内科学 |

□ 診療科の特徴

1. より迅速に、よりの確な健診を心がけています。

健診センター専用棟には、診察室、心電図、腹部超音波検査装置、X線撮影装置、上部消化管内視鏡が完備されていますので、それぞれの検査を迅速かつ効率的にすすめることが可能になっています(コース、オプション内容によっては、中央診療棟での検査、診察になります)。また、各学会の認定医・専門医が多数在籍していますので、より専門的での確な診断が可能になっています。

2. “点”から“線”の健診へ

従来の結果を眺めるだけの“点”の健診ではなく、継続的な健康管理に役立つ“線”の健診を目指しています。特にここ数年来問題視されているメタボリックシンドローム、喫煙関連疾患については、各診療科の専門外来と協力し、継続的な診療を受けていただけるよう心がけています。

3. より確実な早期発見を目指して

各領域の悪性疾患については、最近の低侵襲治療の発達で、その早期発見はより重要になっています。また近年、癌に対する様々なリスクファクターが明らかにされており、これらのリスクを考慮したハイリスク検診の試みも始まっています。当センターでは、子宮がん検診に、子宮頸がんのリスクファクターとされる human papilloma virus (HPV)検査を、胃がん検診に血清ペプシノゲン/血中ヘリコバクターピロリ菌抗体検査を、前立腺癌にPSA測定を導入し、各疾患の早期発見を目指しています。

4. より“やさしい”検査へ

胃がんの早期発見には内視鏡検査(胃カメラ検査)の有用性が指摘されていますが、受診者にとっては、これまで“つらい”検査の一つでした。当センターでは極細径内視鏡による経鼻内視鏡検査を導入し、受診者にとって“つらい”検査から“楽な”検査への転換を図っています。

□ 診療(業務)内容

基本コース(一般コース・脳ドック・レディースコース)に加えて、各種オプション(肺:胸部CT検査、婦人科:診察・US、乳がん:MMGなど)を受診者の希望に応じて実施しています。

□ 診療実績(平成25年度)

基本健診

| | 総受診者数 | 一般健診 | 生活習慣病 | 脳ドック | レディース | 乳癌 |
|--------|-------|------|-------|------|-------|----|
| 2011年度 | 992 | 891 | 8 | 26 | 26 | 36 |
| 2012年度 | 844 | 764 | 11 | 27 | 30 | 12 |
| 2013年度 | 866 | 810 | 6 | 34 | 16 | |

オプション

| | 脳 | 肺がん | 動脈硬化 | 乳がん | 子宮癌 | 骨粗鬆症 | 前立腺 | 血液流動性検査 |
|--------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|---------|
| 2011年度 | 137 | 48 | 94 | 169 | 157 | 102 | 199 | 21 |
| 2012年度 | 118 | 48 | 94 | 183 | 140 | 101 | 161 | 36 |
| 2013年度 | 122 | 54 | 85 | 199 | 138 | 93 | 177 | 43 |

| | 胃透視件数 |
|--------|-------|
| 2011年度 | 216件 |
| 2012年度 | 254件 |
| 2013年度 | 353件 |

| | 内視鏡件数 | 胃がん発見数 | 内早期胃癌数 | 表在食道癌発見数 | 表在中咽頭癌発見数 |
|--------|-------|------------|--------|----------|-----------|
| 2011年度 | 891件 | 4件 | 3件 | 0件 | 0件 |
| 2012年度 | 764件 | 3件 | 4件 | 0件 | 0件 |
| 2013年度 | 457件 | 5件(内視鏡による) | 4件 | 1件 | 1件 |

□ 厚生労働科学研究費補助金 研究課題名(課題番号):全国のサリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態に関する研究(H23-医薬-指定-023)

サリドマイド胎芽病患者は壮年期を迎えており、様々な疾患を続発しつつある。現在は個別に医療機関を受診しているが、上肢欠損ないし低形成者は採血が困難、血圧の測定方法が決まっていないなどの問題点がある。平成23年度から国立国際医療研究センターを中心に始まった今回の研究では、診療上の注意点など含めた医療関係者用の「診療ハンドブック、Q & A」を作成し、胎芽病者が医療機関にそれを提示できるようにすることが目的とされている。京都医療センターでの上部消化管内視鏡検査は経鼻内視鏡検査も可能となっている。当センターで健診をご希望された18名を分析した。2/3が経鼻を、1/3が経口をご希望された。経鼻内視鏡は嘔吐反射が少なく鎮静剤が不必要であり、サリドマイド胎芽病患者の健診に向いていると考えられた。サリドマイド胎芽病者に経鼻内視鏡検査を施行するに当たっての必要な知識と注意点が明らかになりそれらをQ&A形式にまとめた。スペースの関係でQのみを記載すると、Q1:口と経鼻の選択は通常通りで良いのでしょうか?Q2:経鼻内視鏡禁忌の方はおられましたでしょうか?Q3:経鼻内視鏡検査の手順は他の患者さんと同じで良いですか?Q4:経鼻内視鏡検査に要する時間は変わりませんでしたか?Q5:経口内視鏡検査と比較して経鼻を施行するに当たり注意すべき点がありますか?Q6:どのメーカーの経鼻内視鏡を用いましたか?Q7:経鼻内視鏡時に鎮静剤は必要ですか?Q8:経鼻内視鏡の前処置は通常通りの前処置で良いですか?Q9:鼻腔の左右はどの様にして選択しましたか?Q10:経鼻内視鏡時の体位について問題なかったでしょうか?Q11:解剖学的な異常或いは特徴的な異常所見はありませんでしたか?Q12:鼻出血は見られましたか?Q13:介助で留意すべきことはありましたか?(上記Q & Aは英語・ドイツ語に翻訳され公開されている)

地域医療連携・広報活動

F M 8 4 5 からだ元気 新しい胃がん検診” 2011年12月14日

前川高天:基調講演 京都医療センターにおけるピロリ菌除菌療法の現状 第4回深草消化器医療連携の会
2011/8/27 京都

講義・講演

| 演者・演題・学会名 | |
|-----------|---|
| 前川高天 | パネルディスカッション 胃粘膜萎縮を考慮してこれからのH.Pylori感染症診療の課題 Scientific Exchange Meeting 2013 in Kyoto |
| 前川高天 | パネルディスカッション 「確実な除菌、正確な除菌判定を求めて」H.Pylori Symposium in Kyoto 2014/1/23 |

学術活動報告(学会・研究発表など)

| 演者・演題・学会名 | |
|-----------|---|
| 北岡修二、前川高天 | 人間ドックにおける経鼻内視鏡検査の有用性と問題点、第77回日本消化器内視鏡学会総会、2009年5月23日 名古屋 |
| 北岡修二、前川高天 | 胃がん検診における経鼻内視鏡検査の有用性と問題点、第78回日本消化器内視鏡学会総会、2009年10月17日 京都 |
| 北岡修二 | 経鼻内視鏡検査の現在～Pros and Cons～第14回経鼻内視鏡研究会in関西、2010年4月10日 大阪 |
| 北岡修二、前川高天 | 経鼻内視鏡検査の受容性に影響する受検者因子の臨床的検討、第80回日本消化器内視鏡学会総会、2010年10月16日 横浜 |
| 北岡修二、前川高天 | 経鼻内視鏡検査における適応型IHb色彩強調画像観察の有用性、第1回経鼻内視鏡研究会 2011年8月19日 名古屋 |
| 北岡修二、前川高天 | 経鼻内視鏡検査における適応型IHb色彩強調画像観察の有用性、第82回日本消化器内視鏡学会総会 2011年10月21日 福岡 |
| 北岡修二、前川高天 | 胃がんリスク検診における経鼻内視鏡検査の有用性、第51回日本消化器がん検診学会総会 2012年6月1日 熊本 |
| 北岡修二、前川高天 | 極細径内視鏡検査における適切な画像設定の重要性、第2回胃細径内視鏡研究会 2012年6月2日 熊本 |

投稿論文など

| 著書・雑誌名 | 著者・タイトル |
|------------------------------|---|
| 消化器の臨床 15:147-150 (2012) | 原田直彦、姉ヶ尾佳奈、前川高天、他:クロピドグレル服用患者における上部消化管出血の現状 |
| 消化器がん検診学会誌 51:213-221 (2013) | 勝島慎二、北岡修二、水本吉則、岩本諭、江坂直樹、遠藤文司、太田義之、出口美智代、島伸子、前川高天:新しい胃癌リスク評価の考え方 |
| 京都医報 214-16 (2013) | 前川高天:Up To Date ミニ講座 Q & A ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎診療のポイント |